

グリーンサークル 43号

クローズアップ
活動団体紹介
講座紹介

澤登 早苗
豊ヶ丘の杜
中央公園のみどりの記憶をつなぐ
プロジェクト（図書館）

多摩市みどりのかわら版 安藤 美夏



クズ

～クローズアップ～

よそ者から伴走者に あつという間に4半世紀、私の多摩市歴 恵泉女学園大学 澤登早苗

皆さん、こんにちは、恵泉女学園大学の澤登早苗です。恵泉で有機園芸をベースにした教育・研究に携わるようになってから4半世紀が過ぎました。最初は学生時代から住んでいた国立の自宅と大学の間を車で往復するだけ、長男誕生後は、実家のある山梨からの電車通勤となり、専任教員になった頃は、多摩市で過ごす時間は増えたものの、地元の方との接点はほとんどありませんでした。

そんな私に最初の転機が訪れたのは2005年頃、研究休暇中の故新妻昭夫学科長（当時）に替わり、たま・まちさんの定例会で、有機園芸の話を見せていたことでした。これを機に、ゼミ生と団地の歩道部分にある植栽マスで食べられるものを育てるツリーサークル・ガーデンの実証試験をさせていただきました。その中で、「恵泉はブラックボックスみたいな存在、そこでどのようなことが行われているのか地元に住む私たちには分からない」、といわれ大きなショックを受け、地域に開かれた大学になるためには、園芸を通じて地域とつながっていくために何ができるか真剣に考えるようになり、様々な取り組みを提案、実行、応援してきました。これらの取り組みを通じ、私はよそ者から伴走者に昇格し、大学には社会園芸学科というユニークな学科が誕生し、私が多摩市の農業委員を拝命するに至ったのだと思います。

2011年4月、私とゼミ生たちは、グリーンライブセンター（以下、GLC）のオープニングでオーガニック・カフェを開催し、その後も毎年こどもまつりでカフェの手伝いをしてきました。

2011年からの10年間は、多摩地域の皆さんと一緒に「福島復興支援・交流プログラム」を軸に、様々な地域連携活動を行ってきました。震災直後の5月に有機農業学会有志で福島の被災地や有機農業者を訪ね、春になってもタネを播けない農家の実情や心情を目の当たりにし、1年生全員が生活園芸の授業でタネから野菜を育て、収穫し食することを体感する恵泉の学生なら、福島の農業者の気持ちが理解できるはず、現地に行かなくても、東京に居ながらもできることがあるはずと考えたからでした。福島と東京の子どもが多摩の地で、食と農と環境について体験を通じて

考える、そんなキャンプを市民の皆さまと共働して開催できたこと、それを通じ多くの方とご縁をいただいたことは私の宝です。韓国の名門大学梨花女子大の学生を恵泉との合同授業で、パルテノン多摩のミュージアムとGLCに案内し、ニュータウン開発の歴史を学び、都市と農村の関係や、近代化が私たちの生活にもたらした影響について共に考えたこともあります。

今、中央公園エリアでは大規模改修に向けた準備が進んでいます。多摩ニュータウンの誕生から半世紀、時代は大きく変わりました。豊かになった今、食べることを楽しめない若者、生きている実感が持てないという都市生活者も増えています。

新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちが大切にしてきた人と人との関係づくりに深刻な影響を与えています。この困難な状況を乗り越えていくために、私たちは、都市農業がもつ多面的機能や、人と自然の関係などをもう一度問い直すべきに時期に来ていると思います。

大型改修を機に、GLCを含む中央公園及びその周辺にある空間や施設が、人と自然のよりよい関係を問い直すための体験の場、学びの場として、そして人と人との関係を紡ぎなおす場として、これまで以上に人々の日常の中で活用されるようになることを願って止みません。

私も多摩の皆さんの伴走者として、GLCやグリーンボランティア活動がより充実したものになるように、少しでもお役に立てるよう、引き続き努めていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



2011年4月29日 GLCオープニングの日に
（後列右から2人目が澤登先生）

～活動団体紹介～

豊ヶ丘の杜（多摩の里山）

フレンドツリーサポーターズ 代表 小野 令

フレンドツリーサポーターズ (FTS) は、八ヶ岳の「悠々の森」が発祥ですが、ここ多摩市内の緑地の「豊ヶ丘の杜」は主要なフィールドです。年に 20 日間を定例作業日として毎回 7、8 人が参加して下草刈りや不要な木の除伐、竹林の整備など、市との協定のもと緑地の管理を行っています。

－ 杜をひとめぐり －

ベテランの皆さんから話に聞くと当初はかなり荒れていたようで、アズマネザサがはびこり、草刈りも相当苦労したようです。また、造成時のゴミが捨てられていた場所や農家の裏山として、戦時の防空壕が残っていたり、農産物を蓄える室もあったりします。すぐ近くには村落の名残の竹林や、貝取神社もあり、一帯は乞田川の支流の谷をはさんで向かいの貝取山と共に里山の風情がよく残っています。杜には多摩市の木であるヤマザクラが何本も育ち、我々がご神木と呼んでいる樹齢 70 年ほどのヤマザクラの前は開けた平地となり、ここに農家の母屋があったのでは、と想像をたくましくさせます。裏手には今では 40 年の大木になった落葉のコナラの林が武蔵野の面影を残しています。この林では春にキンランが多く見られます。その一画の竹林には、春になると近隣の人が筍掘りに今でも入って来ます。山の反対側は常緑のシラカシの林で、夏は濃い葉に覆われ薄暗く湿気を保ってくれています。もうひとつのご神木であるフジの大木が鬱蒼とした森の中に白い肌を見せ、まるで大蛇のようにカシの木にからまっています。ここではタマノカンアオイが多数見られます。また、シイタケの栽培も毎年 1000 株行っていて楽しみのひとつです。薄暗い森の出口には水場がありサワガニやカワニが生息しトンボが産卵、ヤゴが潜んでいます。

その下はなだらかな斜面の野原になっており数年前に福島の有名な三春滝桜の挿し木をもらいうけ遊歩道沿いに植えました。今では 4 月に立派な枝垂れ桜が咲き誇るようになります。



サワガニのいる湧水

した。ここから南へ向かうと最初のヤマザクラに到ります。

－ 自然の回帰 －



ニホンアナグマ

去年から今年へとコロナに見舞われた影響で予定の作業がなかなかできず参加者も減りました。ただ、人が入らなかった分、自然が盛り返してきているという気がしています。今まであまり見るこ

とのなかった蛇のアオダイショウや珍しいニホンアライグマを会員が確認して写真におさめています。先日はニホンミツバチがコナラの巨木のうろに巣を作り、元気に営巣中です。いつも春先に仕掛けるスズメバチのトラップに今年はなんと合計 70 匹もかかっています。これまで下草刈りをするのが精一杯の我々の活動でしたが、今回、コロナのおかげで周囲の自然を見直す気持ちを持って、いろいろ発見が続いているのかもしれない。面積にすれば 1.5 ヘクタールほどの森ですが色々な顔を見せてくれます。

－ 最新の杜情報 －

去年から今年にかけて森のコナラに発生したナラ枯れ病は、とても困った代物ではありますが植生や生態系についてあらためて考えさせられました。また、コロナ禍の中でどうやって作業を継続



ニホンミツバチ

すべきか会員皆で悩んだ 1 年でもありました。最近、ギンラン、ナンバンギセルをみかけなくなっており、みなで残念がっています。復活させるには何をすべきなのか？ナラ枯れともども森木会のみなさんのお知恵を借りながら対処していきたいと思っています。

「多摩市立中央図書館樹木伐採起工式」「つくってあそぼう！木のおもちゃづくり」
～中央公園のみどりの記憶をつなぐプロジェクト～
多摩市教育委員会 教育部 中央図書館整備担当課長 萩野 健太郎

図書館では、「知の地域創造」の拠点となる中央図書館を令和 5（2023）年 5 月に開館することを目指して、多摩中央公園北西角地の斜面で建設工事を進めています。

中央図書館の位置が現在の場所に決まったのは平成 30（2018）年 1 月のことです。中央図書館の建設を求める多くの市民の声がある一方で、建設予定地には 200 本以上の樹木があり、それらを伐採せざるを得ない状況でした。そこで、市内で活動している環境カウンセラーの祐乗坊進先生にご相談しながら「中央公園のみどりの記憶をつなぐプロジェクト」を実施していくことにしました。このプロジェクトは、中央図書館の建設工事で伐採せざるを得ない樹木を市民の財産として有効に活用しながら、市民の皆さんにみどりに関する学びを深めていただくための様々な取り組みを行うものです。

はじめに、令和 3 年 4 月 10 日には「樹木伐採起工式」を行いました。通常、建設工事の着工前には建設事業者と施工主が神主さんと呼び、起工式や地鎮祭と呼ぶ神事を行います。図書館ではこれまで多くの市民とともに中央図書館建設の検討を進めてきた経過を踏まえて、市民の皆さんと一緒に樹木の伐採を行い、それを建設工事のスタートにしたいと考えました。当日は多摩グリーンボランティア森木会や GLC の皆さんにご協力をいただきながら、市民 18 人とともに 3 本の小径木に市長の合図でノコギリを入れ、受け口・追い口を切り進めました。最後にロープで引いて伐倒するときは大きな拍手が上がりました。



樹木伐採起工式の様子（2021 年 4 月 10 日開催）



木工体験講座「つくってあそぼう！木のおもちゃづくり」の様子（2021 年 7 月 31 日・8 月 1 日開催）

次に、7 月 31 日・8 月 1 日には「つくってあそぼう！木のおもちゃ」という小学生以下を対象とした木工体験講座を GLC で開催しました。当日は祐乗坊先生や色々な山緑地の会の皆さんにご協力をいただきながら、4 月 10 日の樹木伐採起工式で切った伐採木の枝を使って、ぶんぶんゴマやぐるりんカーを作りました。猛暑の中でしたが、保護者を含めて 109 人の方々にご参加いただき、たくさんの笑顔があふれました。

さらに、同プロジェクトでは伐採木を製材・乾燥して中央図書館内に置くテーブルやベンチ、開館時に配布するノベルティグッズを制作する取り組みも進めています。

これらの取り組みはどれ 1 つとっても図書館だけでは到底実現できません。みどりを愛する多くの方々の出会いに感謝するとともに、ご支援・ご協力をいただいたの方々に対してこの場をお借りして御礼申し上げます。

最後に、多摩中央公園や GLC は改修を控えており、エリア全体が大きく生まれ変わろうとしています。これからも GLC やグリーンボランティアの皆さんと図書館が様々な場面で連携・協力し、市民の皆さんの学びを応援していきたいと考えています。今後とも引き続きよろしくお願いたします。

追伸：皆さんの勢いに感化され、わたしはこの春からプライベートでも野菜づくりをはじめました。土や葉っぱの香り、そして収穫した新鮮な野菜がたまらんです（笑）

多摩市の公園緑地を彩る花壇 多摩市 環境部 公園緑地課 安藤 美夏

公園緑地課の安藤と申します。平成 30 年度の入庁以降、公園管理を主に担当しています。公園管理の業務は幅広く、学生時代からのみどりに関わっていた経験が活かせることもあれば、新たに学ぶことも数多くあります。入庁前から訪れていたグリーンライブセンターには、現在もたびたびお世話になっております。今後ともよろしくお願いたします。

さて、みなさまは多摩市内の公園緑地を彩る花壇を目にしたことがありますでしょうか。公園緑地課では、恵泉女学園大学と花壇管理ボランティアの方たちとともに、平成 28 年度よりコミュニティ花壇事業を実施しています。恵泉女学園大学の先生から苗づくりや花壇づくりについて講義を受け、鶴牧西公園で実際にボランティアの方たちがポット上げや追肥・摘芯といった苗づくりを行い、その後それぞれの花壇に花苗が配布されます。以前は花苗を配布するのみでしたが、「愛でるみどりから関わるみどりへ」というコンセプトのもと、「配布される花を植えるだけではなく、花を育て、その場所に似合う花壇をつくりながら花の育苗から管理までの楽しみを感じて活動していただきたい」という目的で始まった事業です。現在は約 30 団体が講習会に参加し、自分たちで苗づくりをした花苗を利用して市内の公園緑地で花壇管理をしてくださっています。講習会を通してボランティアの方たちとコミュニケーションをとったり、花壇への思いを聞いたり、市としてもとても貴重な時間となっています。

ボランティアのみなさまの思いが込められた花壇を見ることが、業務で現場に出たときの楽しみとなっています。

います。業務外で個人的に、カメラを片手に市内の公園花壇めぐりをしたいと思いつながらなかなか実践できていないので、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いて街歩きができるようになったら訪れたいと思っています。公園を利用するみなさまも、ぜひ花壇にも注目してみてください！



コミュニティ花壇事業（花壇講習会）での苗づくり



市民ボランティアの手で公園を彩る花壇

表紙の絵

「クズ」絵・内城葉子

木の縁に蔓延り、厄介者ですが花はきれいで甘い香りがし、つるはクラフトの材にもなり重宝します。

<プロフィール> 1949 年東京生まれ。1986 年国立科学博物館第 2 回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989 年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショー Gold Medal 受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005 年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

編集後記 ～ふたつとないもの～

最近多摩市内を歩いていると、この時期葉があおおとしているはずの雑木林の一部が葉ごと赤く枯れている様子を見かけます。ナラ枯れという現象がこの地域一帯に起きているようです。

次号はナラ枯れについて、特集する予定です。 (まつ)

多摩市グリーンボランティア通信

グリーンサークル 43 号

発行日：2021 年 9 月 15 日

編集・発行責任：

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tgic/>